

---

# 姫と従者な関係

GARU

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

姫と従者な関係

### 【著者名】

GARU  
GARU

Z0238D

### 【あらすじ】

これは『姫』に振り回される、いくつも普通な高校生の日常の「マ

艶やかな髪。

鋭くまた愛らしさも魅せる瞳。

しなやかなその肢体からほどこか特別な血筋・気品さえも感じ  
れる。

そんな……多くの目を集めて止まない『姫』と呼ばれる彼女。

彼女にそこの凡庸な高校の中でも多くの者たちが認め認識する特別  
であった。

文化祭も一週間前となり皆にもよつやくエンジンが掛かり始め  
た最中。

「すまんつウチの一年が『姫』を怒らせやがった」

顔馴染みな友人からの最近良く聞くお決まりな一言。

「はあつまたかよ！つい二日前にもやらかしたばつかじやねえか  
言葉通り、ついこの前一悶着やつたばかりだというのに……

反省という言葉を知らんのか。

「ふつコレも我が部の伝統。こんな所で途絶えさせる訳にはいかん  
だろう」

「つたく会場の設置に追加でまた部員何人かもりつくからなつ。

【写真部部長さん】

「…了解、料理部部長さん」

「コレもまた最近の決まり文句。

哀しいかな、我が料理部には男手が足りてないのだ。

「つたく、何でまたこう毎回忙しい時に限つて」

公然と人手が徴収できるのはいいが、流石にボクばっかり苦労す

るなんて普通にイヤだ。

かといって校内で『姫』を何とかできるのは…

……はあ～

「で、場所はどこ?」の時間帯なり…屋上?」

「イヤ校内を逃げ回つてる」

時間もない事だし直球で終わらせたいボクの心情をバツサリ裏切つてくれる素敵回答。

しかし…

「逃げてるって凄いなソイツ。なんだよホントに文化部員か?」

直前までの心情すら忘れて、ソコは素で感心。

生まれもつてな狩人だつたりする『姫』。

普通現役運動部な連中だつてそう簡単には逃げられない。

そんな姫から一人で逃げ続けられていると…

「中学ん時は陸上で長距離走つてたって、あつあと趣味はサバゲーらしい」

「なつ!?なんでんな奴がお前んトコに」

「サバゲー…サバイバルゲームとかつていうヤツかな?」

確かに山の中とかでやる戦争!?

みたいな感じだっけか?

「将来の夢は戦場力メラマンだそつだ」

「なつ…なんつーかまた…」

「ふつウチの秘密兵器さつ」

何故か誇らしげなバカ一人。

「ソイツもそうだが、まともな部員は居ないのか?

…つていうかまさかわざと?」

わざと『姫』を怒らせた?

いや…いやいや流石にソレは…あはつあはは

「何か体育館の方が騒がしいな…とりあえず行つてみるか?」

「ああつああそだな」

まあともかく、今は何も考えないでおいつ。

うんソレが良い。

今はさつさと『姫』を抑えて労働力確保つ。

つーかそりゃ今日はボク自身既に時間切羽詰つてんだつた。

生徒会に提出する書類。

提出期限が…はあ〜。

と、まあ軽く現状を悲観してた所前方から飛び出してきた影一

人。

「あつ部長」

ボク達に気付いての一言と、振り回されてるカメラを見て正体確信。

「来るぞッ！…」

「了解つ！」

思考を一気に戦闘態勢に。

教室に常備させている『ソレ』にいつもの『粉末』を仕込んで準備完了。

後は『姫』が現れれば…

……

……

……

サバーチーな後輩君と接触。  
問答無用で確保。

……

……

「ヒツてーーっ」

窓から飛び込んできたアクロバティックな強襲者の一撃に後輩君の悲鳴が響く。

そして…

……

……

……

うんソレが良い。

今はさつさと『姫』を抑えて労働力確保つ。

つーかそりゃ今日はボク自身既に時間切羽詰つてんだつた。

生徒会に提出する書類。

提出期限が…はあ〜。

と、まあ軽く現状を悲観してた所前方から飛び出してきた影一

人。

「あつ部長」

ボク達に気付いての一言と、振り回されてるカメラを見て正体確信。

「来るぞッ！…」

「了解つ！」

思考を一気に戦闘態勢に。

教室に常備させている『ソレ』にいつもの『粉末』を仕込んで準備完了。

後は『姫』が現れれば…

……

……

……

サバーチーな後輩君と接触。

問答無用で確保。

……

……

そして…

……

「ヒツてーーっ」

窓から飛び込んできたアクロバティックな強襲者の一撃に後輩君の悲鳴が響く。

うんソレが良い。

つーかそりゃ今日はボク自身既に時間切羽詰つてんだつた。

生徒会に提出する書類。

提出期限が…はあ〜。

と、まあ軽く現状を悲観してた所前方から飛び出してきた影一

人。

「あつ部長」

ボク達に気付いての一言と、振り回されてるカメラを見て正体確信。

「来るぞッ！…」

「了解つ！」

思考を一気に戦闘態勢に。

教室に常備させている『ソレ』にいつもの『粉末』を仕込んで準備完了。

後は『姫』が現れれば…

……

……

……

サバーチーな後輩君と接触。

問答無用で確保。

……

……

そして…

……

「ヒツてーーっ」

窓から飛び込んできたアクロバティックな強襲者の一撃に後輩君の悲鳴が響く。

うんソレが良い。

予想外な方向からの襲撃に場は一瞬硬直。  
しかしながら例外はどこにでも居る。

『姫』との付き合いの長さは伊達じやない！

ターゲットに襲い掛かるのに夢中な【姫】

『対姫捕獲用麻袋』を頭からスッポリ。  
即座に口を閉じてそのまま押さえ込む。  
途端に暴れ始めた『姫』。

暴れる。暴れる。

それはもういつも通り凄い勢いで。

叫び。

爪を立て。

身を跳ねさせて。

ボクだつて負けず劣らず必死で押さえ込む。

暴れる。暴れる。

『姫』必死。

ボクだつて必死。

だつてココで失敗したら次の標的は間違いなくボクな訳だし。  
そりや必死にもなりますつて。

…そして…

…長い様で短かつたかもな時間。

ようやく『姫』の抵抗がなくなつた。

強く握り締めてた麻袋の口を開けると、案の定中には酩酊状態  
な『姫』。

「ふーーーっ」

「口口でようやく安堵の溜息。

脇ではアイツに怒られてる後輩君。

『姫』相手に引っ搔き傷一つといつのはなかなか。

幸運だったのか…

後輩君の実力だったのか…

まつボクには関係ないか。

「んじや『姫』は連れてくから」

幸せそうにだれているしてゐる『姫』を腕の中に抱えて。

「約束忘れんなよー」

更に一言残して部室に向かう。

「まったく…大方昼寝の邪魔されたか何かだと思つけど人騒がせな

軽く喉元を搔いてやると「口口口」と気持ち良さそうに喉を鳴らす。

「いつか保健所送りにされても知らないから」

言って軽くコツいてやるが、コレもまあいつもの事。

「マタタビ粉もそろそろ追加しどかなきやいけないし、やる事いっぺいっ

ぱいっ」

分かつてゐるのか。

分かつてないな。

「本当に困つたお姫様だよキミは」

そんな『姫様』は甘える様に…

ただ今という時が至福だといつかの様に…

「いやー

ボクの腕の中で嬉しそうに一聲鳴いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0238d/>

---

姫と従者な関係

2010年10月9日21時38分発行